

# 市の政 おおの

56. 9. 1  
No.344



## 心と心の懸け橋



## 手話に いどむ



国際障害者年にちなんだ市の手話奉仕員養成講習会が、有終会館で開かれています。

毎週1回2時間で、合計15回。今月中旬には修了式が行われます。受講者は、昼と夜の部合わせて約50人です。

夜の部には30人が受講しています。病院・福祉施設・会社などに勤める

若い女性を中心ですが、中学生と高校生も数人います。講師は県手話通訳協会員で、手話サークルすぎな、でも活躍している林千代子さんです。

「みなさん本当に熱心に受けておられます。修了されてからも、聴覚障害者の手助けとなっていつまでも活用してほしいと思います」と話しています。

受講者の1人、佐々木洋子さんは「勤めでは窓口を担当しています。以前から手話に関心がありましたので申し込めました。やっぱり難しいですね。まだ基礎的な会話ぐらいしか出来ません。未熟ですけど、修了したらぜひ実生活に生かしていきたいと思います」と、控えめながらはっきりと話していました。

# 障害を乗り越え社会へ参加

## 座談会

## 国際障害者年

市内にはさまざまな障害を持つ人がおり、手帳の交付分で約1,500人、推定では2,100人とされています。なかには障害を乗り越えて立派に社会参加している人も数多くいます。今月は4人の方に登場願って、市長を囲んで座談会を開きました。障害者の実情や悩み、提言などを話し合ってもらいましたので紹介しましょう。



在宅障害者の野外交流(中島)

### 今の仕事に生きがい

**司会** みなさん、仕事でお疲れのところご苦勞さまです。それぞれ障害にもめげず、立派に社会に参加しておられますが、これまでの経過や仕事の内容についてお聞かせ下さい。



**前田** 私は生まれたときから目が見えず、盲学校に通っていたころからマッサージの仕事をと決めていました。いわば宿命だと思っています。

現在この仕事に誇りを持ち、生きがいを感じています。

**市川** 3歳のときに小児マヒにかかり、足が不自由になりました。幼い

ころからの障害でしたから、大きくなってからもそんなに悩みはしませんでした。両親も普通の子供と同じように育ててくれましたのでヒガミはなかったですネ。今はコンピューターの部品を組み立てる工場に勤めています。



**坂本** 僕は22歳のときに作業事故で片足をなくしました。ある日突然障害者になったわけで、最初の四、五年間は体のことよりも精神的に悩みました。障害者の職業訓練所に2年間通ったとき、いろんな障害を持った人が一生懸命努力しているのに接し、自分はまだ恵まれているとつくづく思いました。

冠婚葬祭の会社に勤めています。

**清水** 私は耳が全く聞こえません。みんなと話が出来ないことが一番つらく悲しいです。子供のころから、自分1人で考えてしなければならぬことが多かったです。織物会社に勤めており、機織りの仕事をしています。

**市長** みなさんはそれぞれ障害を持ちながら、とても明るく朗らかに活躍されている様子ですネ。同じような障害に悩む人たちにとって、大きな励みになると思います。

### 将来の生活が不安

**司会** 個人的なことをお聞きしますが、家庭生活や暮らし向きはいかがですか。

**市川** 主人も足が不自由ですが、織物会社に勤めています。子供は私の義足を足の抜けがらだと思っているようです。はっきり言って、障害者は就職もしにくい実情ですし、楽な生活ではありませんネ。

#### 出席者

清水	清治さん	36歳	(聴覚障害)
前田	富夫さん	33歳	(視力 ♫)
坂本	次義さん	34歳	(肢体 ♫)
市川	恵美子さん	33歳	( ♫ ♫ )
市長	川崎泰彦		
司会	市福祉事務所長	永見繁雄	
手話通訳	林千代子さん		

# 増やしてほしい平等な職場



**坂本** 今は妹と2人だけですから、早くお嫁さんを見つけたのが一番の課題です。(笑い) 僕の勤めている会社では、給料や待遇などの差別はありません。本人の実力評価によって決まりますから対等です。

**清水** 妻も難聴です。子供は2人います。以前勤めていた会社では給料が安かったです。今の仕事は夜勤ですから、子供と接する機会が少ないのがチョットさみしいです。

**前田** 親と同居しているので、今のところ生活上の不便は感じません。でも、親が年をとった後のことを考えると不安はあります。

**市長** 近年次第に改善されてはいますが、障害者福祉として不十分な点はいろいろあると思います。市だけで解決出来るものではありませんが行政としても、より一層きめ細かい対策を推し進めていかなければならないと痛感しています。

## 社会の理解が必要

**司会** 人間関係や社会生活での悩みはありませんか。

**坂本** 突然障害者になったということで、数年間は苦労しました。でも自立せざるを得ませんから、夢中ががんばってきました。

**市川** 職場のみんなはとっても親切にしてくれますので、仕事は楽しいです。子供は私の足が治るものと思って「治ったら一緒に山へ登ろう」なんて言ってます。

**前田** 今年は国際障害者年ということで、市でもいろいろな大会や事業を行ってもらい喜んでます。でも大会の参加者は、一般の人が少な



ったようです。もっと健康な人びとに参加してもらい、その意義をわかってほしかったです。

**清水** 私たち聴覚障害者は、言葉が話せない、会話が出来ないということで、内気な人が多いんです。けれども、心の底では話し相手・相談相手



がほしいと望んでいます。だから健康者の方が手話で話しかけてくれたりしますと、とてもうれしいです。

**市長** 聴覚障害の人に対しても、われわれの方から心を開くことが大切です。市も今年は6月から手話講座を開いています。これには市の窓口職員も参加しています。前田さんのおっしゃることは同感です。一般の方の理解を深めてもらうことは大切なことです。

## 今年を出発点に

**司会** 最後に、社会の人に対しこれだけはと思うことは何でしょうか。

**坂本** 今は障害がなく健康でも、交通事故や労働災害などでいつ障害者になるかわからない時代です。それだけに、障害者の問題を他人ごととして考えずに、1人ひとりの問題として受け止めてほしいです。

**前田** 障害者の悩みは、その人自身か家族でないとわからないのが実情でしょう。欧米と比べても、福祉の面ではまだまだ後進国ではないかと思えます。国際障害者年を今年だけの「お祭り、に終わらせないでほしい」と願っています。

**清水** 日常生活全般にわたって、話し相手が少ないのが寂しいです。身近なところに、もっと手話の出来る人がいてくれたら……と思います。

**市川** 個々の障害者の実情を理解してほしいと思います。それと、雇用対策の拡大もお願いしたいです。能力に応じて、みんなが働けるような施策を望んでいます。

**市長** 私も障害者年を今年だけのものに終わらせたくないと考えています。むしろ、今年をスタートと考えて取り組んでい



ねばならないと思います。心のこもった、温かい町づくりに努力する決意です。一般の人にも、障害者に対する理解を深めるよう協力を呼び掛けねばなりません。みなさんの貴重なご意見ありがとうございました。

**司会** いろいろと有意義なお話をありがとうございました。みなさんの今後一層のご活躍を祈ります。

# 自立への



作業に取り組む生徒

## 経済的独立を目指す

### 精神薄弱者授産施設

あすなろ授産所は精神薄弱者のための通所施設です。授産、とは、就業能力に限度がある人に対し技能を習得させ、収入の道を与えて経済的な自立を援助することをいいます。

市内をはじめ勝山市から、16~47歳の22人が通っています。職員は8人。建物は、旧有終中学校の校舎を借り受けています。職員の愛情ある指導のもとに、家具ののり付け、電

### あすなろ授産所

員の大石武利さんは、設立に尽力した1人です。「知恵遅れの子供たちに自立への道を開きたいと思って奔走しました。設立当初は7人の訓練生でスタートしましたが、それはもう苦労の連続でした。最初の自立者が出たのは53年の春でした。そのときの気持ちは言葉では言い表せないです。これまでに6人が木工会社などに就職しています」と、しみじみ

気部品やおもちゃの組み立て、軍手の縫製等の仕事に励んでいます。

施設は51年11月に誕生。作業指導

話しています。

関係者の苦労が実り、55年6月には待望の法人組織となりました。さらに、今月から上篠座で新築工事が始まります。

帰山研吾所長は「生徒はみんなとても明るく素直です。指導内容は県内の施設のなかでもトップレベルにあると思います。

ただ、通所ではどうしても指導に限界がありますので将来は収容施設にも拡大したい考えです」と語っています。

市内には障害者のための福祉施設がいくつかあります。そこには個々の力の限りを尽くして自立への道を求めて努力する姿があります。施設の概要を紹介しましょう。

大野荘は昭和35年に設立されました。生活保護法に基づく救護施設としては、県内で唯一のものです。現在地には53年4月に移転しました。

身体や精神に障害があるため、自立して日常生活が送れない人を収容して生活の扶助を行っています。現在122人が入所しており、複雑で多様な障害者が多いのが特徴です。

入所者の平均年齢は53歳で、職員の常時介助を必要とする人が全体の64%を占めています。職員は32人おり、個人の能力や障害の程度に応じた指導を続けています。

重度者には身近な衣・食・住の生活指導に重点が置かれており、身体の不自由な人には機能回復訓練も併せて行っています。

中・軽度者には日常生活に必要な知識と生活習慣を指導するほか、作業指導やクラブ活動なども取り入れています。作業指導は働く意欲を養うことに心掛けており、室内作業の

## シイタケや野菜の栽培も

### 救護施設 大野荘

ほか、近くの畑や旧施設の跡地を利用してシイタケ栽培や里芋・ネギなどの野菜作りに励んでいます。

「当施設にはいろんな障害を持った人がおり、重複した障害のある人もいます。それだけに職員も大変ですが、人間らしく生きられるよう指導に努めています。最近はいよいよ理解されてきましたが偏見を抱かず、こういう施設の実情をわかってほしい

と思います」と、松田正治荘長は話しています。



畑仕事に精を出す入所者

# 道を求めて



おもちゃの部品を切り離す園生

## 基本的な生活指導に重点

### 精神薄弱者更生施設

### むつみ園

精神薄弱者更生施設むつみ園は、52年4月に大野荘から分離して出来ました。大野荘と同じく、社会福祉法人大野福祉会が運営しています。

重度の障害者が対象で、保護と更生に必要な指導訓練を行っています。現在49人の入園者がおり、うち45

人が重度です。職員は24人です。

大半が重度者なので、洗顔・食事入浴といった基本動作の生活指導に重点を置きながら、障害の程度によって作業等の指導訓練も行っています。個人の能力別に、プラスチックのおもちゃ部品の切り離しや、古木みがき、粘土細工、草花や野菜作りなどを指導して、残存能力の開発を進めています。

そのほか季節ごとに花見会・運動

会・キャンプ・盆踊りなどの行事も催しています。これらの運営には婦人会・母子福祉会・青年グループ等の積極的な協力を得ているそうです。

「入園者それぞれの性格は千差万別ですが、大変に人なつっこくて甘えん坊な点は共通しています。一般に想像されがちな粗暴性はありません。まだ『気味が悪い』『なじみにくい』といったイメージを持っている人もあり、交流を深めて理解してもらうようにしています。最近はいろいろな方の協力をいただき、ありがたく思っています」と東野太園長は話しています。

## 地域社会との交流に努力

### 精神薄弱者更生施設

### 希望園

精神薄弱者福祉法による更生施設希望園は、昭和45年に設立されました。障害者が自立し社会へ巣立っていくための手助けをしています。

現在の入所者は100人で、社会的な自立促進を第一に、41人の職員が身の回りの世話や生活指導などを行っています。

社会参加するための訓練としては日常生活に欠かせない一般教養を中心とした学習指導をはじめ、能力に応じておもちゃの組み立てや木工(稲の苗箱)などに取り組む実習指導をしています。クラブ活動では、園芸音楽・造形などがあり、心豊かな人間づくりを目指しています。

入所者のうち13人は市内の事業所に勤めています。雨の日も風の日も

新聞配達の仕事が続けて、既に15年ほどになるという立派な人もいます。

地域の人びととの交流も積極的に取り入れており、市内の1人暮らしのお年寄りを慰問したり、大野マラソンや文化祭には毎年参加するなど社会の中で活動することに力が入られています。

土肥隆園長は、「地域社会の人びととの交流に重点を置いています。一般の人と触れ合

うことによって、園生も成長していくと思います。同じ社会の一員としての交わりを大切にしたいですね。障害者だって、能力に応じた仕事ができるはずです。より多くの障害者が働けるよう理解を深めてほしいと思います」と話しています。



苗箱作りに励む園生

障害を持つ人に対して同情やあわれみの気持ちで接したり、好奇の目で見たりする人がまだいます。このことが障害者の地域社会への平等な参加を妨げる主因となっています。

## 予測なしに襲う災害

# 来てから泣くより

# ふだんの備え

「地震・雷・火事・台風……」いずれも恐ろしい災害です。一瞬のうちに大切な財産を失い尊い生命までも奪ってしまう災害は、いつ襲ってくるのか予測出来ませんが、私たちの日ごろの心構えによって被害を最少限に食い止めねばなりません。今月は防災総合訓練を機会に“地震災害、の備えについて考えてみましょう。”



車両事故の救出訓練

## 総合防災訓練終わる

# 各機関や一般市民が参加

## 救助・救出など本番さながらに

福井県総合防災訓練が8月21日、有終東小学校グラウンドと真名川河川敷（富田大橋下流）の2会場で行われました。

訓練には35防災関係機関をはじめ保育園・幼稚園児、小・中学校の児童生徒、一般市民等1,500人と、車両116台、航空自衛隊の飛行機・ヘリコプター3機など参加した大がかりなものでした。

午前10時からは有終東小学校で地震訓練が行われ、各園児・児童・生徒・町内会の人たちによる避難訓練や、逃げ遅れた人の救出・救助、ビ

ル火災の防御、一般市民による初期消火訓練などが行われました。

午前11時から富田大橋下流の真名川河川敷で、主に集中豪雨に対する訓練が行われました。

ここでは自衛隊のヘリコプターによる緊急物資空輸をはじめ、増水のため中州にとり残された孤立者の救出、仮橋の架設、各種の水防工法、仮設住宅建設、電話・電力施設復旧救護、炊き出しなどの訓練が行われ参加者はいつ襲ってくるか予知出来ない災害に備え、懸命の作業に取り組みました。



ヘリコプターによる水難者救助



# その時あなたは



## まずわが身の安全を

グラッ、グラ、これは大きいぞ！と判断したら、すぐテーブル・机・ベッドなど丈夫な家具の下にもぐり込むなり、トイレや押し入れなど柱の多い所へ身を寄せます。たんすや本だなのような倒れやすい物の近くは避けなければなりません。

## すばやく火の元を消す

これまでの大地震では最も怖いのが火災です。地震を感じたらすばやく火を消さなければなりません。



「火を消せっ！」と大声を掛けるのも気分を落ち着かせる切っ掛けになります。

## 近所ぐるみで初期消火



万一出火したら初期のうちに消し止めることが大切です。大混乱の状態では消防車が来ないとの心構えが肝要です。消火は1人や2人の少人数では手に負えません。大声で隣近所に知らせ、近所ぐるみ・町ぐるみの協力が必要です。

## あわてて飛び出さない

どんな大きい地震でも、大揺れは1分程度と言われています。

あわてて外へ飛び出すと、屋根がわらや窓ガラスの破片などが落ちてきて、かえって危険です。



## 危険な所から離れる

狭い路地、がけの上や下、石垣やブロックべいの近くなど、危険な所にいるときは急いで離れます。

ガス漏れのでている所や、切断した電線のある所へも近寄らないようにします。



## がけ崩れに注意

山際や急傾斜地は山崩れやがけ崩れが起こりやすく危険です。

すばやく安全な場所に避難しましょう。

## 避難は必ず徒歩で

避難するときは消火・救急・救護活動の障害にならないようにするため、自動車は絶対に使わず、必ず徒歩にします。

持ち物は最少限にとどめ背負います。身軽に行動をするため両手をあけることが大事です。



## 協力し合って応急救護

たくさんの負傷者が出ると救急の手が回らないこともあるので、協力し合って応急救護をしましょう。

急場にはお互いの助け合いが大切です。

## 余震を甘くみない

市役所や消防署警察署などの指示に従って行動して下さい。一般的には余震は本震より小さいと言われていますが、余震でもガラスの破片や看板・ネオンなどが落ちてくる恐れがあるので、十分注意する必要があります。



## デマに迷わされない

地震という異常時にはデマが流れやすいので、トランジスターラジオなどで正しい情報をよく聞き、自分勝手なひとりよがりはやめましょう。

お互い他人の迷惑にならないよう助け合って秩序を保つ心掛けを忘れないことです。

## スマイル

「予測なしに襲う地震」

私を忘れていませんか

——ナマス

# まだまだ若いさんには…

市内には仕事を持って第1線で元気に働くお年寄りや、趣味・創作活動・社会奉仕などに目覚ましい活躍をしている多くのお年寄りがいます。永年にわたって蓄えた豊富な知恵や技能を若い世代へ伝承してもらおうと、市では60歳以上の方に「高齢者人材活用派遣事業」に参加を願い、要請に応じて指導に当たってもらっています。今月はそのなかから4人の方がたを紹介しましょう。



わら細工に励む松浦さん

## わら細工

### わらの便利さ教えた

松浦 知人さん（今井 64歳）

「以前はどの農家でも冬仕事として、わらで縄やゾウリ・ミノなどを作ったものですが、最近ではコンパインで刈り取りますのでわらが少なくなっていて、だんだん触れることがなくなりました」と残念そうに話す松浦さん。

わらは牛馬の飼料や肥料をはじめ民具の材料として欠かせない物でしたが、近年は代用品が出来たと農業の機械化が進んだため、ほとんど利用することがなくなりました。

松浦さんは取り入れの時に必要な分だけのわらを残しておいて、杉の雪起こしや庭木の雪囲いなどに使う

縄は全部自分で作ります。

数年前から暇を見つけて、懐かしいミニゾウリやワラジ・ワラグツなどをせっせと作っています。

先日もある所で小学生にワラゾウ

りの作り方を教えましたが、肝心の縄が出来ないので、結局2時間かかってようやく縄をなえるようにだけしたそうです。

「物が豊富になると、つい粗末にしがちですが、1本のわらでもこんなに役立つことや便利さを子供に知ってもらいたいです」と作業を進めながら話していました。

## 紙人形作り

### 和服の着方の勉強にも

山形 あいさん（本町 80歳）

高齢者人材活用登録メンバーのなかで最高齢者と自負する山形さん。

紙人形作りを始めたのは10年ほど前です。通信教育を受け半年で全課程を終えました。「最初のうちは教

えてもらう人もいないし見本もないので、どうなるかなあと案じられました。寝ていてもあそこをどうしたらいいのかなあと夢に見るくらいでした。でも、1つ1つ作っていくうちにだんだん楽しくなっちゃって」と、とてもうれし

そうです。

これまでに200以上作り、友人や近所の人たちに贈って大変喜ばれているそうです。最近では人形作りの楽しさを1人でも多くの人に味わってもらおうと、指導に出掛けることが多くなりました。

「このごろの若い人は着物を着る機会が少ないせいでしょうか。合わせ方を逆にしたり、日本髪について知らない方が多いです。勉強になりますよ」とほほえんでいました。

昨年は水墨画に挑戦し、今年もかな文字講座に参加しています。「趣味を持つことは楽しい老後を送るためにも大切なことです。それに長生きの秘けつではないでしょうか」と元気よく話していました。



仕上げを急ぐ山形さん



# いま老人パワー花ざかり

## 黒豆ジュース

### 味は好みに応じて工夫

鳥山としをさん（春日 2 70歳）

若いころから手作り料理が得意だった鳥山さん。子供のころに母が作って飲ませてくれた黒豆ジュース、作りを生活学校で提案しました。

昔を思い出しながら、自分なりに工夫して新しいジュースを作って会員に広めました。

「うちでは市販のジュースはほとんど買ったことがありません。家族全員が黒豆ジュースを飲んでいます。うれしいことに4人の孫が喜んで飲んでくれています。病気もしませんヨ」と顔がほころびます。

作り方はごく簡単で①黒豆0.18ℓ（1合）に水0.9ℓ（5合）を入れて20分ぐらい煮る②黒くなった汁を布でこして豆と分ける③汁の中へ砂糖500g入れ、火にかけて完全に溶かす④水で冷やしてからクエン酸を茶サジ2杯（またはレモン2個のしぼり汁）入れて、ゆっくり混ぜると鮮やかなワイン色になって黒豆ジュースの元が出来ます。

「このジュースの元を水で3倍に薄めるだけでもいいです。牛乳と混

ぜると「豆牛乳、サイダーと混ぜると「ファンタ」になります。そのほか梅酒やブドウ酒、カリン酒など何とでも好みに応じて作れますから本当に楽しいですよ」と声はずませていました。



自慢の豆ジュースを作る鳥山さん

## 盆栽

### 見たり見せたりする楽しさ

乾 友信さん（中野 67歳）

乾さんは盆栽歴26年のベテランです。裏庭には所狭しとたくさんの鉢植えが並んでいます。

「若いころから山登りが好きだったものですから、草木には興味がありました。川の縁や道端に生えている草木を持って帰ったものですが、なかなかうまくいなくていくつも捨てました」と思い出を語ります。

その後、友人の勧めもあって本格的に盆栽を始めました。

今では松や杉・ヒノキなど各種の針葉樹をはじめ、ケヤキ・シラカバ・ブナ・カツラ・モミジなどの落葉樹

や、花もの・実ものまで約50種類余り、300鉢にもなっています。

「なにしろ変化が遅いものですから、枝が1本枯れても水が足りなかったのか、肥料の量が間違ったのか、定が悪かったのかなど、いろいろ考えさせられます」と悩みや苦心を話しながらも「しかし、何と言っても枝ぶりを見ながら仲間と話し合っているときが一番です。盆栽は人に見てもらい、人に見せてもらうものですヨ。1人でやるものではありません」といかに楽しそうに話していました。



手入れに余念がない乾さん

## 高齢者人材活用事業とは

高齢者人材活用派遣事業とは、永年にわたって培ってきた豊富な知識や知恵・特技・技能などを、次代を担う若者たちや希望者に伝承してもらうための事業で、3年前から始まりました。

指導に当たるのは60歳以上のお年寄り、今年40人が登録されています。

内容は今回紹介した4人のほかに彫刻・絵画・書道・民謡・一般教養・郷土史・ゲートボール・健康管理・短歌・俳句・生け花・大正琴・菊作りなどさまざまです。

指導を受けたいグループや団体は、市教委社会教育課（6-1111内線405）へ気軽に申し込んで下さい。

## 着々進む林道整備

# 新たに「西山線」を開設

昨年9月から新しく工事を進めていた林道「西山線」の第1期工事がこのほど終わりました。

場所は西山の集落の南側で、延長1,500m、幅員4mです。

これは新林業構造改善事業によるもので、同事業は森林資源の開発と林業の振興を図るため、55年度から取り入れられています。

総工事費は3,674万円です。財源の内訳は、国・県の補助金2,572万

円、市の一般財源735万円、地元負担金367万円となっています。

57年度にはさらに約5,000万円をかけて560mを延長する予定です。

この林道の開設によって、周囲129haにおよぶ森林資源の開発と、山林経営の安定に大



整備された西山線

いに役立つこととなります。

## 総延長は88km余り

市は、計画的に林道造りを進めており、55年度末で45路線、総延長で8万8,465mになっています。

昨年度は、伏石の「寺月線」433m佐開の「鬼谷線」300mが延長されました。新林業構造改善事業では、「西山線」のほかに「下打波線」260mの延長工事も行われています。

今年度は、引き続き寺月線420mと鬼谷線360mの延長工事が進められています。工事費は両方で6,500万円です。

市の山林は全面積の80%以上を占めており、豊富な森林資源の活用は市の発展に欠かせません。林道造りは、林業の振興の基盤であり、今後も積極的に建設を進めていきます。

成しますと交通緩和に大きく役立つこととなります。

都市計画街路三番線の中野から中津川（国道157号線との交差点）まで、984mの改良は50年度から始まりました。

主に京福電車の廃線跡地を利用して、幅員12～16mに拡幅する工事を進めています。

これまでに2億3,000万円が投じられ、既に中野寄り280mの改良・舗装が完了しています。

残る672mの整備は来年度以降計画的に進める方針で、59年度には全区間の改良が終わる予定です。

工事中は歩行者の通行は出来ませんが、諸車の通行は出来ません。しばらくの間、ご迷惑をかけますがご協力下さい。

## 都市計画街路三番線

# 中野橋を架け替え

完成は57年3月

都市計画街路三番線の木爪川に架かる中野橋の架け替え工事が、このほど始まりました。

この橋は、全長32m、幅員16mです。9mの車道と、両側には植樹帯をはさんで3.5mと2.5mの歩道が設けられます。

完成は57年3月の予定で、総工事費は1億3,400万円です。

これまでの橋は幅員が4.5mと狭く、ネックとなっていただけに、完



工事が始まった中野橋

意見やアイディアは市役所へ

# 克雪市民会議が誕生

## 56豪雪の教訓を生かす

行政と市民が一体となって雪を克服しようと、このほど「大野市克雪市民会議」が発足し、8月10日市役所で第1回の会議が開かれました。これは、記録的な56豪雪で問題になった除雪後の道路への屋根雪下ろ



剣道大会



六間広場のおのおの祭り

しや、水路への無計画な投げ入れによって生じた浸水などのトラブルを解消するとともに雪国に住む者として雪に対する意識を高め、明るい生活が送れるよう市と市民が協力し合って、総合的に雪対策を進めようとするものです。

委員は市街地および各地区区長の代表6人、商工会

議所・建設業会・織物工業組合などの団体の代表5人、それに市議会議長・土木事務所長・警察署長・医師会などの学識経験者5人から成っています。

初会合では会長に商工会議所会頭の松田確太郎氏、副会長に市区長会の四方軍平氏と医師会の松田理一氏がそれぞれ選ばれました。

この会は○除雪施設や機械の整備充実○屋根雪下ろしと道路除雪○流



市民の足を奪った昨冬の豪雪

雪溝への通水と雪の入れ方○路上駐車防止○雪捨て場の確保——などの問題について調査・研究をすることになっています。

2回目の会議は9月下旬に開く予定で、今後は部会を設けて細かく検討し、11月には今冬に間に合うよう意見をまとめることにしています。

市民の方で雪を克服するための建設的なご意見がありましたら、市土木課または庶務課へお知らせ下さい。

## 7万人が広場を埋める

### おのおの祭り これまで最高の人出を記録

奥越の夏を彩る第14回おのおの城まつりは、8月16日の「おのおの祭り」で幕を閉じました。

期間中は越前大野城での大野先覚遺墨展・古窯展や、市民会館での第2回市美術展をはじめ、野点茶会、囲碁大会、柔道・剣道・居合道大会習作発表会、ジュニア奥越フェスティバルなど多彩な協賛行事が行われまつりを一層盛り上げました。

15・16日六間広場で催された市内

4中学校による吹奏楽演奏会、太鼓まつり、市民吹奏楽団の演奏会には暑さのなかにもかかわらず大勢の人が詰めかけ、演奏に合わせて手拍子を打ったり、響きわたる太鼓の音に聞き入ったりしていました。

8日から各商店街で始まった「おのおの祭り」は、出足がいま一歩というところでしたが、15・16日の両日は今年の踊りおさめとあって、浴衣姿の市民や観光客・帰省客が六間広場にどっと繰り出し、身動きも出来ないほどになりました。

城まつり実行委員会のまとめによると、この両日だけで約7万人の人出があり、これまでの最高を記録しました。

越前大野城

屋根をふき替え

石がきも一部修復



改修を待つ大野城と石がき

市教育委員会は、傷みが目立つようになった越前大野城の屋根がわらの全面ふき替えと、約400年前から

残る石がきの一部修復工事に間もなく着手します。

屋根のふき替えは、昭和43年に城が再建されて以来初めてです。近年かわらが破損したり、かわらの下に敷いてある粘土が崩れるなど、傷み

がひどくなっていました。

今回の工事では、天守閣・隅櫓・玄関・廊下のかわらの下に敷かれていた粘土を全面的に敷き直すとともに、壊れたかわらを取り替えます。

今度修復される石がきは、城の南側にあるお福が池のわきに積まれている部分で、約20坪です。

この石がきは、天正4年(1576年)金森長近公が大野城を構築以来残っているもので、自然石をそのまま積み上げた「野面積み」という工法が使われており、学術的にも貴重な史跡です。

しかし、永い歳月を経て崩れたりずれたりしている部分が目立っています。これまでも48・49・52年の3回にわたり、傷みの多い部分から石を積み直してきました。

今回の工事で、全体のほぼ半分が修復されることになります。

工事費は両方合わせて約1,100万円で、年内には完了する予定です。

越前大野城は、近世の平城の先駆的構想を示すものと言われていましたが、安永4年(1775年)に城下で起きた大火によって焼失しました。

現在の城は、43年に東京在住の旧大野藩士の子孫・荻原貞氏(故人)の寄付によって再建されました。鉄筋コンクリート造りで、二層三階の天守閣を備えています。

までに1,000点以上集めました。

古い家がどしどし壊されると同時に、これまでに使われてきた道具が次から次へと捨てられ燃やされました。それらをなんとか保存したいと考えたのが収集の切っ掛けだそうです。

20年ぐらいいなりましたが、農機具・台所用品・馬具・教材など多種類にわたっています。

庫裏を新築するときは、現在の建物をそのまま民具館に出来ればと話しておられました。

珍しい物としては、せんべい焼き器、年貢米の納入に使った村斗榊、火もらいかめ、夏・冬用の馬わらじ、ポトルキープに相当する2升入りの徳利、手炉などがあります。

村の人びとはもちろん、仕事に来る人も収集に応援と協力をしています。

村外れには、岩をくりぬいた中に地蔵がありました。(T生)



④2 松丸

阪谷橋を渡るとすぐ右手に、松丸館跡があり、昭和52・53年県道拡幅工事に伴って発掘調査が行われました。

松丸は、かつては阪谷地区では六呂師に次ぐ大きい集落で、阪谷小学校の分校もありました。現在は50数戸だそうです。

農協を過ぎて右に折れると、伝心寺があります。山本廣慧住職は民具の収集家として知られ、これ



## お知らせ

### ◆市営葬斎場の火葬員を募集

市では次のとおり職員を募集して  
いますので応募下さい。

〈職種〉葬斎場火葬員

〈人員〉男子1人

〈資格〉昭和7年1月1日以降生まれで、原則として大野市内に住み身体の強健な人

〈申し込み方法〉市庶務課にある申込書に履歴書(写真添付)を添えて、同課へ提出

その他詳しくは庶務課へ尋ねて下さい。

### ◆乾燥機の取り扱いに注意

今年も稲の取り入れ時期になりましたが、この時期には毎年もみ乾燥機による火災が発生しています。

最近の乾燥機は改良されて安全性も増していますが、旧型は火災の危険性が多いので、取り扱いには特に次の点に注意して下さい。

- 乾燥機はコンクリート(土間)の上に置く。天井は不燃材を使い、周囲には燃えやすい物を置かない
- 使う前には燃烧部(パーナー)を点検清掃して、異状がないか確かめる
- モーター200V、パーナー100Vと別々に供給されている乾燥機は200V回路に統一し、変圧器で100Vに降圧する
- 旧型の乾燥機は温度ヒューズや油の自動停止装具の不備なものがあるので運転中は離れない
- 燃料は火を完全に消してから補給する

以上のほか、万一故障したときは専門家に直してもらおうように心掛け、火災の防止に努めて下さい。

### ◆第1回奥越マラソン

第1回奥越マラソン大会が次のとおり行われます。奮って参加下さい。

〈日時〉10月25日(日)午前8時30分から

## 施設めぐりにどうぞ

秋の真名川ダムや宝慶寺憩いの森など、市内の主な施設を案内します。多数参加して下さい。

〈日時〉9月29日(火)午前8時30分～午後5時(雨天決行)

〈対象〉一般市民100人

〈経費〉100円(宝慶寺宝物殿拝観謝礼)

〈持ち物〉水筒・雨具(昼食は市で準備)

〈申し込み〉9月24日(木)までに、市役所秘書広報課(6-1111内線203)へ

〈コース〉市役所～老人福祉センター～北部保育園～陽



明中学校～市清掃センター～有終東小学校～市農協カントリーエレベーター～奥越高原牧場～奥越青少年の森(昼食)～真名川ダム～上庄ほ場整備事業～宝慶寺憩いの森～宝慶寺～市役所

〈コース〉九頭竜国民休養地⇄朝日⇄貝皿⇄後野⇄朝日前坂⇄三面(20<sup>km</sup>の場合)

〈種目〉3<sup>km</sup>～50歳以上の男子、30歳以上の女子

5<sup>km</sup>～40歳以上の男子、30歳以上40歳未満の男子、一般女子、高校男子・女子

10<sup>km</sup>～一般男子、高校男子

20<sup>km</sup>～一般男子

〈参加資格〉中学生以上の者。ただし、中学・高校生は保護者の同意書が必要

〈参加料〉保険料を含め中学100円 高校200円、一般500円

〈申し込み〉9月26日(土)までに912-02 和泉村朝日和泉村教育委員会事務局へ所定の用紙(市体育課にある)にて申し込む。電話での申し込みは受け付けない

### ◆障害者の雇用促進を

9月1～30日は「心身障害者雇用促進月間」です。特にこの期間は心身障害者の雇用を促進する運動が全国的に進められます。

今年は国際障害者年であり「完全参加と平等、のテーマのもとに、心身障害者の雇用促進がその具体的な

目的の1つになっています。

障害者を雇用した事業主には、各種の助成措置(国・県・市)があります。

詳しくは大野公共職業安定所(6-2408)へ尋ねて下さい。

### ◆お年寄りの無料健康診査

65歳以上のお年寄りの無料健康診査を次のとおり行います。多数受診して下さい。ただし、現在内科系疾患で治療中の人は除きます。

〈期 日〉9月10日～11月20日

〈診察時間〉火～金曜日の午前10時から正午まで

〈医療機関〉市内の各病院・医院

〈診査内容〉問診・血圧測定・尿検査・血色素検査など

### ◆8<sup>ミリ</sup>映画コンテスト

〈資 格〉市内在住の8<sup>ミリ</sup>愛好者、ただしアマチュアに限る

〈題 材〉自由(15分以内)

〈締め切り〉10月10日

〈発表〉11月3日の市文化祭

〈提出先〉市内カメラ店・愛好会事務所

〈問い合わせ〉大野8<sup>ミリ</sup>愛好会事務所(有明町9-3 水口隆 6-2196)

# 市民カレンダー

9月10日～9月24日

10(木)	少年相談	9.00～12.00	市役所	人権相談	10.00～15.00	上庄公民館
	心配ごと相談	9.00～12.00	市役所	行政相談	10.00～15.00	上庄公民館
11(金)	<b>倒木起こしの完了届を早く</b>					
12(土) 十五夜	56豪雪による倒木起こしを終わった方は、早く完了届を市林務課へ出して下さい。また、折損木の整理を既に終わった方もこれから予定している方も調査用紙を出して下さい。用紙は市林務課か市森林組合にあります。					
13(日) 世界の法の日	休日当番医	内科 三輪病院 外科 白井医院				
	胃検診 金融相談	9.00～11.00 13.00～16.00	有終会館 商工会議所			
14(月) 満月	胃検診 金融相談	9.00～11.00 13.00～16.00	有終会館 商工会議所	少年相談	9.00～12.00	市役所
15(火) 敬老の日	休日当番医	内科 弘川医院 外科				
	胃検診 レントゲン レントゲン	9.00～11.00 9.30～11.00 13.30～15.00	有終会館 春日2丁目角野宅 旧四番石灯ろう角	結婚相談	10.00～15.00	有終会館
16(水)	少年相談 交通事故相談 無医地区診療	9.00～12.00 10.00～16.00 13.30～15.00	市役所 市役所 下打波集会場	人権相談	13.00～16.00	大野公民館
17(木)	少年相談 交通事故相談 無医地区診療	9.00～12.00 10.00～16.00 13.30～15.00	市役所 市役所 下打波集会場	心配ごと相談	9.00～12.00	市役所
	経営相談	13.00～16.00	商工会議所			
18(金)	人権相談	13.30～16.00	阪谷公民館	<b>無料人権相談</b>		
19(土)	農業結婚相談	13.00～16.00	有終会館	9月16日(水) 午後1～4時、大野公民館		
				9月18日(金) 午後1時30分～4時 阪谷公民館		
20(日) 家庭の日 彼岸入	休日当番医	内科 鳥山医院 外科 安間整形外科医院				
	胃検診 行政相談	9.00～11.00 10.00～15.00	有終会館 富田公民館	人権相談	13.00～16.00	大野公民館
21(月)	少年相談 社会保険年金相談 1歳半児検診	9.00～12.00 10.00～15.00 13.00～14.00	市役所 織物工業組合 有終会館	労務相談	13.00～16.00	商工会議所
22(火)	<b>今月の納税</b>					
	国民健康保険税 第2期分 国民年金保険料 30日までに納めて下さい					
23(水) 秋分の日	休日当番医	内科 高井医院(日吉町) 外科 山川医院(伏石)				
	少年相談 心配ごと相談 献血	9.00～12.00 9.00～12.00 10.00～15.00	市役所 市役所 稲山織物			
24(木) 結核予防週間						

発行 福井県大野市 編集 秘書広報課  
(電話) 0111-1111 印刷 株式会社松浦印刷



九月には、どの学校でも盛大に運動会が行われる。澄んだ青空に飛び交う子供たちの精一ぱいの応援の声は、聞くだけでも実はずがすがすがしい。▼終わって、みんなが帰ったあとの校庭を見ると、ゴミはすっかり拾われ、あちこちにほうきの跡目さえくつきり残っている。疲れたとも言わず係りの責任という意識など全くなく、あれこれ今済んだばかりの思い出を語らいながら、セッセと働いて帰った子供たちの心意気に打たれる。▼暗いニュースがあった。第一回全国学童野球大会で、北陸代表として出場した有終クラブのチビツ子たちが、よく健闘して準決勝戦まで勝ち進んだことだ。ご苦労さん、よくやっただいにはめてやりたい。こんな片田舎のチームが全国で第三位になれたのも、監督やコーチ、選手も選手としては出られなかった子供たちも、みんなが朝早く、また夕方遅くまで、歯をくいしばって苦しい練習に耐えた努力によるものである。優勝は逸したものの、苦しみを乗り越えたすばらしい体験は、生涯を通じて生きる宝として胸の中に生き続けることであろう。▼現今、青少年の非行化が大きな問題になっている。一時の欲望を押さえ切れなくて、つい悪い事をしてしまう。強い心に欠けるからだ。▼秋こそ、運動に学習に大いにハッスルすべき時だ。体も心も大いに躍動させてもらいたい。

(N生)